

開催報告

## 第 2 回交通地盤工学に関する国際会議 (IS-Hokkaido2012)

室蘭工業大学 木幡 行宏

2012 年 9 月 10 日～12 日の日程で、北海道大学学術交流会館（札幌市）にて第 2 回交通地盤工学に関する国際会議 (IS-Hokkaido2012) が開催されました。本会議では、2 つの特別講演、5 つの基調講演のほか、23 のテクニカルセッションがあり、30 ヶ国から 243 名が参加し、140 編の論文発表が行われました。さらに、本会議前日には 3 つのワークショップが開催され、12 編の一般発表のほか、委員会報告が行われました。本会議の主催は地盤工学会でしたが、後援団体となることを国際ジオシンセティックス学会が了承したことから、IGS 日本支部会員の参加料は地盤工学会会員と同額に扱われたほか、IGS 本部の HP においても会議開催案内が掲載されました。また、11 日午後からは IGS 元会長の龍岡文夫先生による基調講演「GRS structures recently developed and constructed for railways and roads in Japan」が行われました。日本の新幹線の建設において施工されたジオシンセティックス補強土擁壁の実績や最近の新設橋梁として橋桁と RC 橋台を一体化し、橋台と背面盛土をジオテキスタイルで結合・補強する GRS 一体橋梁と既設橋梁の橋桁と橋台を一体化し橋台と背面盛土を棒状補強材で結合した NRS 一体化橋梁の研究成果や実施工での現場計測結果などを説明された後、ジオシンセティックス補強土擁壁が津波に対して非常に強い構造物であることが模型実験状況の動画を見せながら分かりやすく説明されていました。

また、10 日の午後には、IGS 理事でもある熊本大学の太谷順先生が座長で、防衛大学校の宮田喜壽先生がセクレタリーとなる「Application of Geosynthetics」というテクニカルセッションが設けられ、以下に示す 6 編の論文が発表され、活発な討議が行われました。

全体的な印象として、本会議における発表論文は、鉄道分野に関する研究が多かったように感じました。今後、道路分野に関する研究、特に、路盤・路床の変形特性や舗装分野でのジオシンセティックスの適用に関する研究が進展し、論文投稿が増加することが期待されます。

1. Rural Road Maintenance Using Geosynthetics Available in Rural Area of Developing Countries (木村亮, 京都大学)
2. Performance of a Bearing Reinforcement Earth (Bre) Wall and Its Numerical Simulation (S. Horpibulsuk, スラナリー工科大学, タイ)
3. Effects of Subbase Geogrid Reinforcement on Residual Deformation Characteristics of Asphalt Pavement (平川大貴, 防衛大学校)
4. Effect of Geosynthetic Drainage Layers on the Recovery Rate of Pavement Surface Modulus (C. Savoie, ラバル大学, カナダ)
5. Predicting and Monitoring the Seismic Behaviors of Geosynthetic Reinforced Soil Retaining Structures (S. J. Chao, 国立宜蘭大学, 台湾)
6. Seismic Performance of Geotextile Reinforced Soil Wall with Double Facing System (辻慎一郎, 前田工織)